

よりよい人間関係を育む学級をめざして

—学級活動におけるソーシャルスキルの展開をとおして—



浦添市立神森小学校
北村 聡

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
1	基本仮説	1
2	作業仮説	1
IV	研究の構想	2
V	研究の内容と方法	2
1	望ましい人間関係づくり	2
2	子ども理解	4
3	ソーシャルスキルと構成的グループエンカウンター	6
VI	研究の実際	7
1	題材名	7
2	題材について	7
3	指導目標	7
4	児童について	7
5	検証指導の実際	7
6	公開検証授業の展開	17
VII	実践の検証	19
1	学級全体の変容	19
2	抽出児の変容	19
VIII	研究の成果と課題	19
1	研究の成果	20
2	今後の課題	20
	おわりに	20
	主な引用・参考文献	20

よりよい人間関係を育む学級をめざして

—学級活動におけるソーシャルスキルの展開をとおして—

浦添市立神森小学校 北村 聡

【要 約】

本研究では、子どもたちの個々の心の状態及び学級の状態を客観的・多面的にアンケートQ-Uで調査を行い、教師の日常的な観察と合わせて、児童理解を深めることができた。さらに、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルを授業に取り入れることにより学級のあたたかな人間関係を育み、人間関係のつくり方・保ち方を身につけられるような授業実践に結びつけることができた。

キーワード □ソーシャルスキル □構成的グループエンカウンター □アンケートQ-U

I テーマ設定の理由

現代社会の特徴として、物や情報の豊かさ・流通のはやさ等の発達があげられる。一方では「めんどろな事を避ける」「孤立」等の人間関係の希薄さがいわれている。さらに少子化・核家族化等の家庭内の問題を含めると、子どものおかれた環境は、人との関わり方を身につける機会が少ないといえる。

学校生活では、休み時間を楽しそうにおしゃべりをしたり遊んだり、友達同士の仲が良さそうにみえたりしても遠慮・気兼ね・緊張等がうかがえる場面もある。またコミュニケーションがうまくとれず、家庭に引きこもったり、自分かってな行動をしたりする事もある。さらに、学級集団がうまくまとまらず人間形成能力にマイナスの作用を及ぼす場合もある。発達段階に応じた人間関係をつくっていくには、人間関係づくりの技能（ソーシャルスキル）が必要である。

人と人との関わりは、本来なら、子どもたちは日常生活の中で家族や友達と関わり合いながら自然にそれを身につけていく。ところが最近では、少子化や地域社会の共同体意識の薄れ等で人間関係の知識や技能を学ぶ機会が減ってきている。子どもたちの実態としては自己中心的・がまんができない・他人の気持ちを察することができない・仲間づくりがうまくできない等が増えていることがあげられている。

学校生活の中では基本的な人間関係づくりの方法としてのあいさつ・頼み方・仲間の入り方・共感の仕方等を身につけることが大切である。これらを身につけることによりお互いに認め合い、つながりを感じることができる学級でありたい。さらにその技能を学校生活や日常生活の中に積極的に活かすことにより、問題を解決していける生きる力を育むことにつながるであろう。その方法を探り実践に結びつけるため、本テーマを設定した。

II 研究の目標

児童の実態を調べ、学級活動の中にソーシャルスキルを実施することにより、学校生活や家庭生活において、よりよい人間関係づくりを実践できる児童を育てる。

III 研究の仮説

1 基本仮説

学級の実態を把握し、人間関係づくりに関する方法を学級活動の中に取り入れれば、意志の疎通がよくなり共感しあい、学級としての落ち着きとまとまりがでてきて、子どもたちの望ましい人間関係を育むことができるであろう。

2 作業仮説

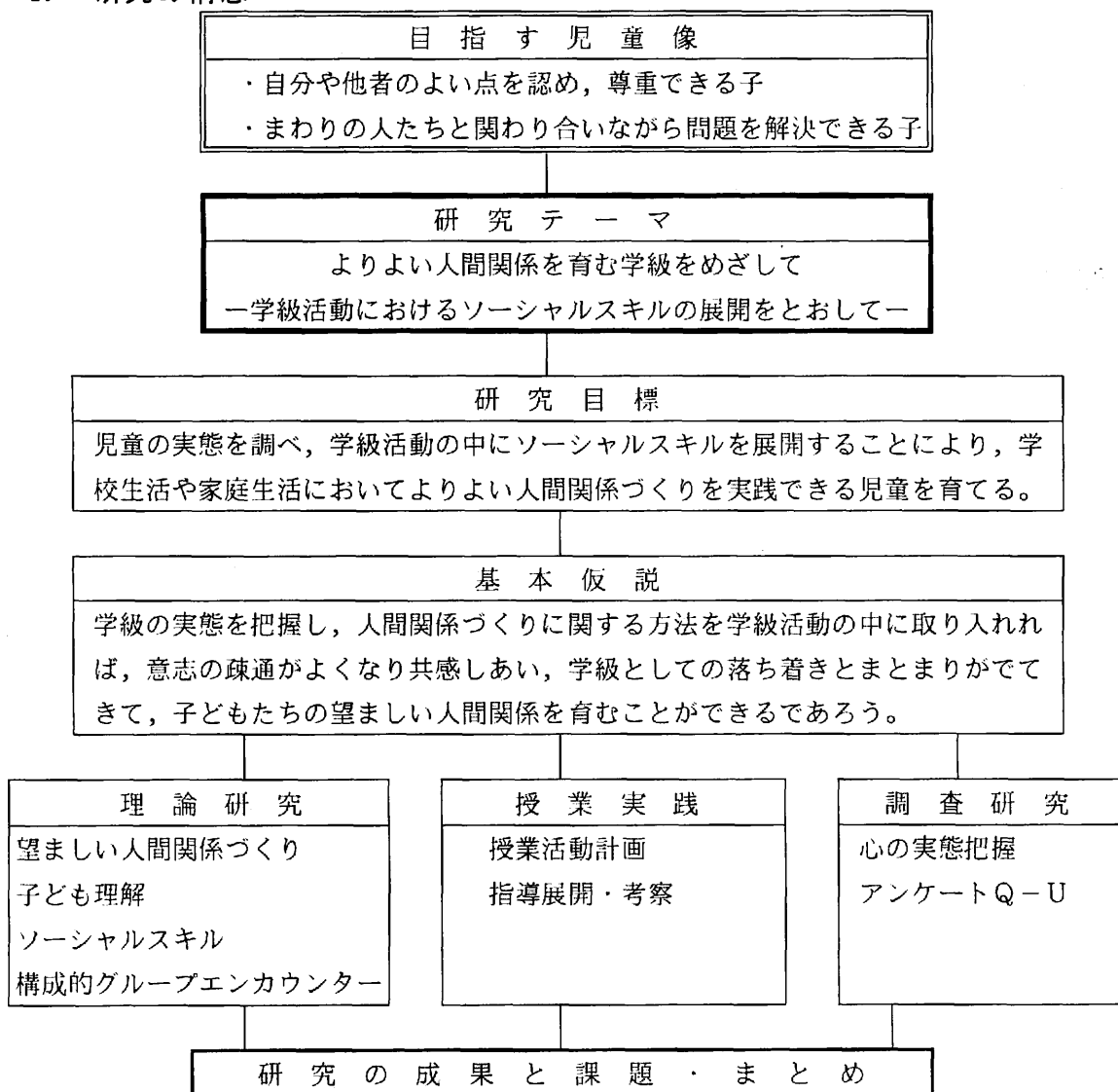
仮説1 子どもに心理検査（アンケートQ-U）

を実施し、子どもが内面でどのように感じているのか、学級集団が子どもの学校生活を充実させる条件を満たしている状態なのかを理解する事により適切な指導の方向性がわかるであろう。

的に位置づけ、実践することにより望ましい行動様式を身につけ、子どもたちの人間関係づくりの基本的な技能を生活の中で生かすことができるであろう。

仮説2 ソーシャルスキルを学級活動の中に計画

IV 研究の構想



V 研究の内容と方法

1 望ましい人間関係づくり

(1) 学級の役割

① 学級と教育相談

学級担任の教師は、学級内のすべての児童が、何を考え、どのような悩みをもっているかなどについて、実態を的確に把握し、好機

を積極的に利用してかかわりを深めるように努める必要がある。その際、教師は様々な教育活動の中で、子どもの言動をできるだけ肯定的に受け止めることが大切である。

子どもは、保護者や教師のようないわば「身近で重要な意味をもつ相手」に日常的な場面で認められ、励まされて、初めて自分や他者に対する信頼感を高

め、心理的に安定する。教師との間に、このような信頼関係が培われてこそ、子どもは、心を開いて自分の悩みを相談するようになるのである。

教師との親近感が深まり、何でも素直に話せるようになると、子どもに防衛的な構えがなくなり、自分の愚痴や不安定な感情を訴え続ける場合がある。教師は、子どもの気持ちを十分に受容して、幼児期から青年期へ移行する過程にある児童期には悩みが多いことを理解し、気づいていないよさなどを見いだすことによって、自分の個性に対する自覚を高め援助したい。

② 心の居場所

不登校は、依然として増加傾向にあるが、学校や教師が子どもたちとの関係を一層よりよいものに変える努力を続けることによって、減少させることができるに違いない。

その意味で教師は、次の点に努力していきたい。

○ どの子どもにも存在感をもてる、魅力ある学校・学級づくりをめざすこと

学校が楽しいと感じられる場でなく、自分の存在感をもてる場でもなくなっていると言われる。学校・学級が子どもにとって充実した学習・生活の場になるように努力することが求められる。

○ 一人ひとりのよさを互いに認め、子どもが意欲をもてる教育環境をめざすこと

最近の子どもたちは将来に夢がなく、自尊心や自立心が低いと言われる。そこで、新しい学力感の理念に立って、子どもが意欲をもち、自分のよさを発揮でき、しかも子どもたちが互いのよさを認め合う教育環境を日指すことが求められる。

(3) 教師と子どもとの関係

① カウンセリングマインドとリレーションづくり

問題行動をおこす子どもだけが悩みや困難を抱えているのではなく、すべての子どもがそれぞれの問題を抱えている。子ども一人ひとりの心をよりよく育てるために、

日常的に授業を始め、学校のあらゆる場面で、子どもが主体性を発揮して自己実現へと一歩でも進むことができるように、教師が子どもと心の関わりを持ち、「共に考える」「共に歩む」というカウンセリングマインドの考え方・方法を生かしたい。

また、教育相談とは、学校におけるカウンセリングであり、教師と子どもが温かい人間関係を確立していく上で必要不可欠のものである。子どもとの信頼関係を深めた上で、子どもが改善を要する場合は、教師が子どもに現実生活していく上での必要なまわりがあることを示し、子どもが自発的に問題に向き合う姿勢を育てることが重要である。

それにはまず、教師は心を開いて子どもと話し合い、リレーション(相手に対して心が開かれていて、本音で語り合える関係づくり)づくりを行う必要がある。

リレーションづくりには、教師が「自己開示」と「傾聴」を心がける。

○ 「自己開示」とは、自分の考え、感情、事実などを語ることである。これにより子どもは教師を身近な人と認識する。

○ 「傾聴」とは、相手の内なる心や状況を把握するつもりで会話する姿勢である。これには受容・繰り返し・明確化・支援・質問がある。

・受容—非審判的な態度で「うん」「それで？」と相づちを打ちながら聞くこと。子どもの自己表明や問題表明が肯定的・否定的に関わらず、真実であると受け止め思いやりをもって聞くことで、子どもは信頼感を強め、話す気になる。

・繰り返し—相手の言ったことを確認する気持ちを込めて復唱すること。子どもの表明したことを正確に聞き真剣に接していることを伝えると共に繰り返すことで相手も自問自答する効果がある。

・明確化—子どもの言いたいことを推察し言葉にすること。子どもは、自分の表明した感情を深層的確に理解してもらえたと実感する。特に表現力の弱い子どもにとっては、教師による援助として効果的な働きであり、ま

た、明確化により子どもも自分の考えや感情に気づくことができる。

・支援——子どもの言ったことに賛同し理解を示すこと。子どもの考えが曖昧であったり自信がなかったりするとき、「それでいい」と指示し話したい言動を強化する。教師に子どもの言動を肯定する根拠があれば支持する。子どもは、支持されることで、「もっと話そう」「何でも話そう」という気になる。

・質問——<閉ざされた質問>はい、いいえで答えられる。質問してもなかなか答えてくれない場合に有効。<開かれた質問>はい、いいえで答えられない質問。子どもたちは、質問を通して自分の考え方を整理したり、答えることで問題への理解を深めることができる。

② 日常的な関わり

学校における教育相談活用を効果的に進めるためには、日常の学校生活を通して、児童を教師の信頼関係をつくる努力を重ねておく必要がある。学校での児童の行動には、保護者、地域住民などからなる様々な人間関係が複雑に影響し合っている。

しかし、学校で直接教育相談の対象となるのは子どもであり、その意味では、子どもと教師の間に好ましい人間関係をつくることが重視されなければならない。信頼関係は、教師の子どもに対する日頃の接し方や言動によって作りだすもので、初めから存在するわけではない。信頼関係は、子どもと教師との相互の関係ではあるが、子どもと教師との人間関係は単なる日常生活の中でのありのままの関係ではない。学校という場における役割関係に基づくものであり、その意味で、信頼関係をつくる責任は、指導の専門家としての教師の方にある。

- 子どもの心や気持ちを優先する。
- 子どもを有るがままに肯定的にみる。
- 子どもの個性と自発性を尊重する。
- 自分自身の心を開き、素直な態度で児童に接する。
- 子ども一人ひとりに積極的な関心を示す。

子どもは、公平な態度で具体的に関わってくれる教師をみることによって信頼関係を深め、自然のうちに好ましい人間関係が育まれていく。

② 教師と家庭との連携

家庭は、人間が社会生活を営む基盤であり、社会生活におけるもっとも身近な集団である。したがって、一人ひとりの保護者が、子どもの教育においても家庭の果たす役割は極めて大きいことを十分に自覚し、望ましい家庭生活ができるように努力することが求められる。

学校での教育相談の効果を上げるためには、子どもの生い立ち、家庭環境、保護者の教育観、生活態度などを知ることが必要である。保護者との連携を図るためには、

- 学校が保護者にとって開かれた場になり、随時参観できるように配慮する。
- 平素から、「学級通信」「学校だより」などをおして学校の実情を理解してもらうとともに、保護者の要望や意見を聞く方法を検討しておく。
- 家庭教育の在り方について積極的に保護者との話し合いを深めておく。

教師と家庭との連携において、保護者は、子どもをよりよく伸ばすための協力者であり、教師と対等の関係にある。しかし、保護者が問題を抱えている場合は、相談を必要としている状態と考えあたたかく対応する。

2 子ども理解について

(1) 心の実態把握

① 教師の日常観察（主観）

日常の行動の観察は基本的に自然的観察であり、次の方法で行われている。①観察日誌法：特定あるいは学級のすべてのこどもの頁や欄を設けて気づいたときに記入する。記入の多少により教師の自己点検にもなる。②参加観察法：教師が子どもと同じ活動に参加しながら観察を行う。③時間見本法：一定の時間間隔を決め、その期間に起こる行動を記録する。④場面見本法：ある行動が出現するいろ

異なる場面から、いくつかの場面を見本として設定し、その結果を生活場面に広げる方法。⑤行動描写法：時間の流れと場面に応じて、すべての行動の出現を順に記録する。⑥チェックリスト法：観察の対象となる行動項目を前もってあげておき、行動の出現をチェックする。⑦評定尺度法：あらかじめ段階や得点の尺度を用意しておき、尺度に位置づけて評定する。

観察は、指導の手がかりを得るためであるから、条件・行動・対応という機能的関連から分析することが望ましい。

② 一対一による面接

教師による面接は、相談室・教室・職員室・廊下・校庭等の場所や登校してから帰宅した後までの時間等さまざまな方法が考えられる。

面接法の中心は、相手の話に耳を傾ける、すなわち「聴く」ことである。教師は、何よりもまず子どもの話を「聴く」姿勢を身につける必要がある。忙しい時であっても、子どもの話には、短時間でもいいから耳を傾けたい。そこでは、相手の言葉のみならず、その言葉の背後に流れている感情を、さらには相手の存在自体を、私たちの体全体で「聴く」のでなければならない。そこには、「聞く」だけにとどまらず、「感じる」という要素も多分に含まれる。

(2) 客観的理解の意義

① 心理テストとは

心理テストは、質問や課題を用いて子どもを構成的に観察し、その個人差の測定をめざす、心理教育的アセスメントである。実施上の留意点としては、

- 実施者は、子どもとの間に信頼関係(レポート)をつくる。
- 心理テスト場面での子どもの行動をよく観察する。
- 結果を魔法の数値として扱わない。
- 心理テストの結果を子どもや保護者に伝える時は、内容を慎重に検討し、ていねいな説明を加える。
- 守秘義務を行い、子どもの援助に必要な

に応じて活用する。

子ども理解と援助の実践について意志決定するのは、人間である。心理テストは意志決定の材料を作成する道具にすぎない。心理テストは適切に賢く活用されるべきである。

② 「アンケートQ-U」(教研式 図書文化)について

教師が日常の教育実践の中で行う子ども理解は、日常観察や言葉かけ等の面接法が主になる。

しかし、それだけではどうしても目の届かない領域ができてしまう。子ども理解の限界を補い、個々の心の状態および学級の状態を理解するため以下のような客観的で多面的な資料を得るために実施した。

- 児童一人ひとりの内面を理解する。
- 児童のタイプによる具体的な対応の方法を知る。
- いろいろなタイプの児童の分布状態から、その学級集団の状態を理解する。
- 学級集団の状態から、今後の学級経営の指針となるモデルを得る。
- いじめ被害を受けている可能性のある子どもを発見し、適切に対応する。
- 不登校にいたる可能性が強い子どもを見だし、支援する。

(3) 「アンケートQ-U」の結果と活用方法

① 結果の分析方法

児童の特徴を理解するには、友達関係・学習意欲・学級の雰囲気はどう感じているかを「学校生活意欲」の表に全員の分布が表される。さらに、一人ひとりの「学校生活意欲プロフィール」がどのようなかたちになっているか視覚的に特徴をつかむことができる。

② 学級での活用方法

学校生活意欲とは、学校・学級の集団生活ないし諸活動に対する帰属感や満足感などを要因とする子どもの心理状態をいう。学校生活意欲尺度を用いて子どもを理解するには、学校生活意欲が高いか低いか、友

達関係・学習意欲・学級の雰囲気のバランスはどうかという視点が重要になる。意欲得点の高い子どもたちの共通項や低い子どもの共通項を検討することで教師の学級経営の方向性が自己分析できる。配慮を要する子どもに対応する前に、授業展開の仕方・子どもとのかかわり方を検討し、対応を修正していくことで変容を図ってきたい。

3 ソーシャルスキルと構成的グループエンカウンター

(1) ソーシャルスキルとは

① ソーシャルスキルの視点

「ソーシャル」は、「対人的なこと」あるいは、「人間関係に関すること」を意味し、「スキル」は、知識や経験に裏打ちされた技術、技能を意味する。したがってソーシャルスキルを文字どおりに解せば、「人間関係に関する技能」のことである。

ソーシャルスキルを発揮するには、

- その場の状況や相手の状態を的確に読み取り、判断する。
- その対人状況の中で何をめざすべきか対人目標を決定する。
- 対人目標の達成のためには、いかに反応すべきか対人反応を決定する。
- 対人反応を的確に実行するために感情をコントロールする。
- 自分の思考や感情を言語行動（言葉）、非言語行動（手振り・身振りなど）を用いて相手に伝える。

これらの過程には、人間関係に関するルールや過去経験などの認知的機能が作用していると考えられている。

② ソーシャルスキルの意義

ソーシャルスキルを獲得していない子どもは、ほかの子どもたちとのコミュニケーションがうまくとれない。相手に十分に意志を伝えられな

かったり、相手からの働きかけに応えられなかったりして、心を閉ざしてしまう。その結果、学級内で無視されたり、拒否されたりして孤立してしまう。これが、級友との協調的な行動や応答的なやり取りの仕方を学ぶ機会をさらに奪ってしまい、無視や拒否に拍車がかかり、学級での不適応感が強まる。このようなことから、ソーシャルスキルの不足は、「いじめ」や不登校、さらには学業成績などとも関連していると指摘されている。また、横断的な追跡調査によれば、子どものころソーシャルスキルが不足していた人は非行に走ったり、成人してからの不適応（職場での不適応、家庭内のトラブルなど）や精神面の問題の出現頻度が高いという。

子どもたちにソーシャルスキルを教えれば、現在の適応状態を改善することができる。特別に問題を抱えていない子どもたちにとっても、お互いの意志を的確に伝え合い、自分の特徴に気づき、相手の個性を認めることができるようになる。

また、将来の問題に対して、予防的な効果を発揮する。発達の早い段階から、人間関係に関する知識や他者に対する反応の仕方を学んでおけば、子どもたちが今後出会うさまざまな対人的葛藤やストレスに対して、適切に対処できる可能性が増すことになる。

③ 構成的グループエンカウンターとは

構成的グループエンカウンターとは、「各種の課題（エクササイズ）を遂行しながら、心と心のふれあいを深め、自己成長をはかろうとするグループ体験のこと」（『カウンセリング辞典』誠信書房）である。また、「集団学習体験をとおして、行動の変容と人間的な自己成長をねらったもの」（片野智治、1996）でもある。この構成的グループエンカウンターのねらいは、心とこころのふれあいであり、自己発見することである。

具体的には、リーダー（教師）が用意したプログラムで作業や討議をする方法で心とこころのふれあいをするのである。リーダーは、グループサイズやグループメンバーや実施時間などを状況に応じて構成する。そして、メンバー

(子ども)に用意した課題(エクササイズ)を与え、課題遂行をとおして感じたこと、気づいたこと、学んだことを分かち合い(シェアリング)ながら、自己開示する。この自己開示によって、自己発見が促進されるのである。

VI 研究の実際

1 題材名

「ソーシャルスキルを取り入れた人間関係の育成」

2 題材について

人は、経験を通して、人付き合いのコツを覚えていくものである。「社会性」とは自分と他者との関係を取り結ぶ行動であり、経験を通して獲得し変化しうるものである。しかし、最近ではプライベートを重要視し、お互いが関わりを避ける傾向にある。社会性を育てる場を地域や家庭だけに求めるのは、限界がある。

そこで、ソーシャルスキルのロールプレイを学級活動の中に取り入れ、児童相互のよい人間関係をつくり社会生活をおくる上で基礎となる力を育てたい。

3 指導目標

家庭環境や性格の違うさまざまな子どもたちの集まる学級の中で、ソーシャルスキルを体験させることにより、自己理解・他者理解を通して、関係づくりを効果的に行う技能を身につけさせたい。

4 児童について

① 活動計画

時	活 動 内 容	目 標 と す る 社 会 性
1	<構成的グループエンカウンター> エクササイズ(じゃんけん列車)	いろいろな友達と集団で遊ぶ楽しさを味わい、新しい環境の変化へのとまどいを和らげる。学級の中で、友達や教師とのリレーションを深める。みんなで遊ぶことを通して、楽しい学級イメージをもつ。
2	<ソーシャルスキル> ロールプレイ(あいさつリレー)	あいさつは良好な人間関係をつくるための始めの一歩である。あいさつの仕方を身につけ、いいあいさつを体験することで、心地よさを味わい、進んであいさつができるようにする。①だれにでもあいさつできる。

心理検査(Q-Uアンケート集計表「学級満足度・学校生活意欲のまとめ」5月中旬実施)をみると、学級生活満足群(学校生活を意欲的に送っている児童)が42%(全国37%)・侵害行為認知群(他の児童とのトラブルがある可能性が高い児童)8%(全国17%)・学級生活不満足群(非常に不安傾向が強い児童)4%(全国25%)となっており、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱かったりする傾向がみられる。

学校生活意欲プロフィールをみると、「友達関係」「学習意欲」「学級の雰囲気」いずれも全国平均値を上回り、バランスのとれた学級といえる。また、「いい人だな、すごいな。」と思う友達がいる。「できなかったことができるとうれしい」などの項目で素直な子どもらしい回答がみられた。

以上のことから、楽しい雰囲気の中で自分の個性を表現でき、人間関係を深めることができる構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルを学級活動の中に取り入れていきたい。さらに、個別の児童に着目してみると、学級生活不満足群に属し学級内で孤立し友人からのサポートが得られていないと感じている児童やみんなから認められていないと感じている児童への個別の教育相談や経過観察が必要と考える。

5 検証指導の実際

		②相手の目を見て言う。③元気な声で言う。④はっきりと言う。
3	<構成的グループエンカウンター> エクササイズ (カモン)	協同作業を通して、全体と個との関わりを知る。個を生かすための協同責任を理解する。グループでの協力をしながら楽しく遊ぶことによって交友関係を広める。ルールを守ることの大切さを知る。
4	<ソーシャルスキル> ロールプレイ (ありがとう)	気持ちのよいあいさつは人と人の心を結びつける。気持ちのよい「ありがとう」のあいさつの仕方を学ぶことによって、相手にも自分にも快い気持ちが起こることを体験し、あいさつの大切さに気づかせる。①相手に体を向ける。②聞こえるように言う。③相手の顔を見る。④笑顔で言う。
5	<ソーシャルスキル> ロールプレイ (ぼくの私のお願い)	相手の気持ちや立場を尊重しながらお願いをする方法を身につける。頼み方が上手になり、聞き入れてもらうことのありがたさがわかる。①頼み事の理由を述べる。②具体的な要求を述べる。③頼みを聞き入れてもらったときの結果を述べる。
6	<ソーシャルスキル> ロールプレイ (あたたかい言葉シャワー) ※ 公開検証授業	あたたかい言葉かけは人間関係も温かくする。あたたかい言葉とは何かを知り、あたたかい言葉をかけられる体験をとおしてそのよさを味わう。①相手に近づく。②相手をきちんと見る。③聞こえる声で言う。④笑顔で言う。⑤あたたかい言葉が「相手の様子+感情語」から成ることがわかる。
7	<ソーシャルスキル> ロールプレイ (勇気)	不当な要求に対しては、自分を守ることが第一に必要である。ここでは、勇気を振り絞って確実に拒否する方法を学び実際に体験してみる。①相手を見る。②落ち着くための自己会話ができる。③勇気をためる自己会話ができる。④「○○なことはできない。いやだ。」と口にだして言う。

② 指導の展開

第1時 <構成的グループエンカウンター> 「じゃんけん列車」

場面	教師の指示・発問と児童の反応・行動	留意点
ウォーミン	○先生とじゃんけんをしましょう。勝った人はそのまま負けた	○楽しい雰囲気を作

場 面	教師の指示と児童の反応・行動	留 意 点
ウォーミングアップ	<p>○最初にじゃんけんゲームをしましょう。全員立ってください。先生とじゃんけんをして負けた人とあいこの人は座ってください。声をそろえて大きな声でかけ声をかけましょう。</p> <p>☆元気よく楽しくじゃんけんゲームをする。</p>	<p>○楽しい雰囲気をつくり、リラックスさせる。</p> <p>○協力する意識を持たせる。</p>
インストラクション	<p>○一日を楽しく過ごすための、方法を知っていますか。</p> <p>☆あいさつをする。友達と遊ぶ。</p> <p>○どんなあいさつの仕方がいいのか学習しましょう。</p> <p>☆元気よくする。相手を見てあいさつする。</p>	<p>○問題意識を持たせる。</p>
モデリング	<p>○では、ちょっとやってみましょう。「おはようございます。」(元気にはっきりと) 「おはようございます。」(元気なく。)</p> <p>○どちらの方がよかったですか。</p> <p>☆元気な方。はっきり言った方がよかった。</p> <p>○それでは隣の人とやってみましょう。「元気」「はっきり」に気をつけていましょう。「〇〇さん」と声をかけてからあいさつをしましょう。</p> <p>☆練習する。</p> <p>○〇〇さんと〇〇さんにやってもらいましょう。よく聞いてください。</p> <p>☆数人がみんなの前でやってみせる。</p> <p>○(拍手) どんなどころがよかったですか。①相手を見ていた。②はっきり言っていた。③心がこもっていた。④声の大きさがちょうどいい。(板書)</p> <p>○これらのことに気をつけて、「気持ちのいいあいさつ」を、してみましょう。</p> <p>○気持ちのいいあいさつで教室がいっぱいになりました。先生はとてもいい気持ちになってきました。みなさんはどうですか。</p>	<p>○教師は演技の練習をしておく。</p> <p>○上手にできている子を見つけておく。</p> <p>○カードを準備しておく。</p>
リハーサル	<p>○ではここで全員でやってみましょう。手をつないで輪をつくらせてください。</p> <p>○先生が隣の人にあいさつをしたら、あいさつされた人は先生にあいさつを返したあと、反対の人にあいさつを返してください。順にあいさつが伝わって、ひとまわりしてきます。「〇〇君おはよう。」</p> <p>☆「〇〇さんおはよう。」・・・</p> <p>○とてもよくできました。さて、みんなは「気持ちのよいあい</p>	<p>○楽しい雰囲気をつくる。</p>

	<p>さつ」のことをおぼえていたかな。もう一度思い出してください。</p> <p>○今度は、逆回りでやってみましょう。「○○さんこんにちは。」</p> <p>○今度は、もっと流れるようにできるかな。よおく見ているね。</p> <p>「○○君おはよう」</p> <p>「○○さんおはよう」 左右同時にスタートさせる。</p> <p>☆スムーズにあいさつをする。</p>	<p>○もう一度確かめをして、あいさつをさせる。</p>
フィードバック	<p>○あいさつが教室いっぱいになって、どんな気持ちですか。</p> <p>○一日気持ちよくすごせるあいさつを学校やお家でもどんどん広げましょう。</p>	<p>○感想を出し合う。</p>
<p style="text-align: center;">< 考 察 ></p> <p>ソーシャルスキルの一時間目、人と人とを結ぶ役割を果たす、あいさつを取り入れた。特に導入部分では、あいさつの大切さを理解させることに努めた。モデリングでは、子どもたちが積極的にみんなの前で演じていた。はずかしそうにあいさつをしている子には、四つのポイントを確かめさせ、「笑顔」を忘れないよう支援した。</p> <p style="text-align: center;">< 授業後の感想 ></p> <p>☆あいさつは、あたりまえだと思ってやっていたけど、でも「えがお」をわすれていました。</p> <p>☆あいさつがどんなに重要かわかりました。どんな人ともあいさつを交わし明るい一日にしていきたいです。あいさつのポイント四つをしっかりとできてきちんとあいさつをしたいです。</p> <p>☆あいさつは、したりされたりするときもちよかった。</p> <p>☆人にあいさつされるととってもきもちいい。これからいっぱいあいさつするぞ。あいさつだいじ。</p>		

第3時 < 構成的グループエンカウンター > 「カモン」

場 面	教師の指示と児童の反応行動	留 意 点
ウォーミングアップ	<p>○この前のソーシャルスキル「笑顔であいさつ」のあと、だれとでもあいさつができるようになったという人が増えました。</p> <p>先生は、とてもうれしくなりました。</p>	<p>○教師の自己開示を行う。</p>
エクササイズ(1)	<p>○今日は、2つの構成的グループエンカウンターを行います。</p> <p>○「神様ですか？」をまず行います。目を閉じてゆっくりと歩き、触れた人に「神様ですか？」と尋ねても何も答えてくれないことから神様との出会いがわかります。</p> <p>○神様をみつけたら手をつなぎ仲間になります。</p> <p>☆仲間を増やし、輪を作る。</p> <p>○人の輪ができたので、「笑顔であいさつ」を回しましょう。</p> <p>握手を入れてみます。</p> <p>☆「○○さんよろしくおねがいします。」</p> <p>○それでは、考えたこと・思ったこと・感じたことを発表して</p>	<p>○説明をわかりやすく、簡潔に行う。</p> <p>○前回の四つのポイントを思い出させる。</p> <p>○シェアリングを行</p>

	<p>みましょう。</p> <p>○みんなの心の中があたたかくなってよかったね。</p>	<p>い感想を共有する。</p>
エクササイズ(2)	<p>○今度は、4つのチームに分かれます。その中からじゃんけんが一番強い人を王様とします。</p> <p>○王様を先頭に一列に並びます。集まったら座りましょう。</p> <p>○王様は、前(3メートル)にでて並びます。先頭の方は、相手の王様のところに来てじゃんけんをします。勝ったら王様の後ろをまわり、列の一番後ろに並びます。</p> <p>○負けた人は、その場で「カモン」と言ってチームの人を呼んでください。負けた人を先頭に、王様の後ろを回り元に戻ります。元に戻ったら負けた人はもう一度じゃんけんに挑戦します。勝てるまで何回でも挑戦します。</p> <p>○それでは、ちょっと練習してみましょう。</p> <p>○それでは、いよいよ本番です。準備はいいですか。第一回戦。用意。始め。</p> <p>☆一斉に走り始め、ゲームを展開する。</p> <p>○結果を発表します。一位○○グループ 二位・・・グループ・・・</p> <p>○王様を変えて、二回戦をやってみましょう。</p>	<p>○説明をしっかりと行う。</p> <p>○できるだけ具体的に例示を示すようにする。</p> <p>○王様だった子も参加できるようにする。</p>
シェアリング	<p>○このゲームの楽しかったこと、つらかったことを話し合いましょう。</p> <p>☆負けて相手の王様の後ろを回って戻ってくるのは、大変だった。</p> <p>☆勝って味方にタッチするのはうれしかった。</p>	<p>○グループと自分との関わり合いを振り返らせる。</p>
<p><考察></p> <p>教師の説明に時間がかかりすぎて、実際の活動の時間が少なくなった。聞く態度が悪いときは、その場ですぐに注意する必要がある。一回目に比べて積極的に参加する姿が見られた。グループ作りの時に、孤立児をさそう場面があった。</p> <p><授業後の感想></p> <p>☆さいしょカモンをした時は一位だったけど次にやったらさいかいになってくやしかったです。</p> <p>☆神様ですかは、目をつぶっているときはどこかにあたりそうで、こわかったけどさいごにみんなで手をつないだときは、安心しました。</p> <p>☆カモンは、王様に5回ぐらいまけてとてもくやしかったです。だけど、6回ぐらいかったのでとてもうれしかったです。</p>		

第4時 <ソーシャルスキル> 言葉のおくりもの

場面	教師の指示と児童の反応・行動	留意点
インストラ	○友達に手伝ってもらったり、助けてもらったりしたあとに、	

クシヨン	<p>「ありがとう」とすぐには言えなかったことはありませんか。それはどんなときですか。</p> <p>☆いそいでいたから。なんとなく。</p> <p>○そのとき、どうしましたか。どんな気持ちになりましたか。</p> <p>☆今度お礼を言おうと思ったけど、とうとう言えなかった。</p> <p>☆悪かったな。さびしい気持ちになった。</p> <p>○「ことばのおくりもの」を読んで、人物の気持ちを考えましょう。</p> <p>「手伝ってあげると言われたとき、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>☆うれしかった。助かった。</p> <p>○手伝ってくれる様子を見て、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>☆「ありがとう」としっかり言わないといけない。悪かったな。本当に助かった。</p> <p>○助けてもらえなかったら、荷物はきつと運べなかったでしょうね。</p> <p>○最後まで運んでくれた後に実際はなんと言ったでしょう。</p> <p>☆助けてくれてありがとう。助けてくれなかったら運べなかったよ。ありがとう。</p>	<p>○気持ちについて深入りしない。</p> <p>○人物の気持ちを考えさせる。</p> <p>○体を使っている子を紹介してあげる。</p>
モデリング	<p>○では、実際になりきって言い合ってみましょう。</p> <p>☆交互に「○○してくれて、助かったよありがとう」</p> <p>○上手にできましたね。では、どのように言ったら感謝の気持ちが伝わるでしょうか。心を込めることがいちばん大切ですが、体はどのように使ったらいいでしょうか。</p> <p>☆相手に体を向ける。</p> <p>☆相手に聞こえるように。</p> <p>☆相手の顔を見る。</p> <p>☆笑顔で言う。</p>	<p>○四つの動作を掲示する。</p>
リハーサル	<p>○このようにすると相手に気持ちが伝わりやすいですね。確かめながら、もう一度言い合ってみましょう。</p> <p>○交互に「○○してくれて、助かったよありがとう」</p> <p>○「ありがとう」と心を込めて、言ったり言われたりしたときは、どんな気持ちだった。</p> <p>☆手伝ってよかった。すっきりした。うれしかった。いい気持ちになった。</p>	<p>○台本がつくれるように支援する。</p> <p>○体を使っている子をみんなに紹介する。</p>
フィードバック	<p>○感謝の気持ちは、心に思っただけでは相手に伝わりません。上手に言葉や体を使うことが大切です。お家や学校でもどんどん使いましょう。</p>	<p>○四つの動作のポイントを振り返る。</p>
< 考 察 >		

教師が読み物を読むときは、集中して聞いてくれた。自分だったらこの場面でどういうことができるだろう。どういうことが言えるだろう。自分に置き換えて考えることができていた。普段何気なく使っている言葉や態度を意識し行動に表すことができていた。

<授業後の感想>

☆言葉がどんなに大切かわかりました。言葉のおくり物は、言うときはスッキリするし言われたときは気持ちがいいので、よい勉強になったと思います。これからも言葉のおくり物の勉強のことをわすれずにつづけていきたいです。

☆ありがとうと言われたとき、とてもきもちがよかった。

第5時 <ソーシャルスキル> ぼくの私のお願い

場面	教師の指示と児童の活動	留意点
インストラクション	<p>○人は助けたり、助けられたりしながら生きています。一人だけで生きていけるはずがありません。このクラスの間みんなだれかに助けられて生活しています。</p> <p>○助けてもらうには「頼み方」が大切です。</p> <p>○ワークシートを見ながら友達にどう頼めばよいか考えてみましょう。</p> <p>☆ねえ、一緒に運んで。運ぶの手伝って。</p> <p>○気持ちよく引き受けてもらうためには、何が大切ですか。</p> <p>☆理由を言う。何を頼みたいか言う。結果がどうなるか言う。心を伝える。</p>	○問題を持たせる。
モデリング	<p>○先生がやってみます。○○君前にでて頼まれる役をやってください。</p> <p>「今、このプリンターを運ばなければならないんだけど、体育館の裏まで一緒に運んでくれませんか。運んでくれたらとっても助かるんだけど。」</p> <p>○聞いていて、どんな気持ちになりましたか。</p> <p>☆手伝いたくなる。</p>	○子どもたちの意見を聞きながら揭示する。
リハーサル	<p>○それでは、実際にいろいろな場面での頼み方を考えてみましょう。三つの場面を自分で考えてください。</p> <p>○今度は、四人か五人でグループをつくり頼む練習をしてください。練習なので頼まれたら「いいですよ」と言ってあげてください。あとの二人は、様子を見てアドバイスをしてあげてください。あとで代表でやってもらいますので、決めていて下さい。</p>	○グループ練習がうまくできるよう支援を行う
フィードバック	<p>○それでは、各班の代表で「頼み方」をやってもらいます。見ているみんなは上手だったところを発表してもらいます。</p> <p>☆笑顔で言っている。やさしく頼んでいる。相手を見て言っている。聞こえる声で言っている。</p> <p>○お願いの仕方をやってみてどんな感じがしましたか。</p>	○台本を読みながらでもよいが、慣れてきたら台本なし

<p>☆頼まれると手伝いたくなかった。うれしくなった。</p> <p>○実際に引き受けてもらえないこともあります。そんなときは、どうしたらいいでしょうか。</p> <p>☆自分の頼み方をもう一度考える。他の人に頼む。自分でやる。</p> <p>○今日のことを思い出して、自分の頼み方を確かめてみましょう。</p>	<p>で練習する。</p> <p>○子どものよい点を見つけほめる。</p>
<p style="text-align: center;">< 考 察 ></p> <p>自分のことを理解してもらい、援助してもらう場面を設定した。普段何気なく手伝ってもらっているのも大切なコミュニケーションの言葉や態度が必要なことがわかったようだ。実際にプリンターを教室に運びロールプレイに使ったのは効果的だった。</p> <p style="text-align: center;">< 授業後の感想 ></p> <p>☆困ったときの、人に対してのたのみかたをやって、とても楽しかったです。心をこめてできたのでよかったです。</p> <p>☆おねがいしたときはどきどきしたけどいいよと言われたときはほっとしました。</p> <p>☆たのまれたときとてもうれしかった。</p>	

第7時 <ソーシャルスキル> 勇気

場 面	教師の指示と児童の反応・行動	留 意 点
インストラクション	<p>○ある人から先生のところに手紙が届きました。このクラスではありません。仮に〇〇君としましょう。手紙を読んでみます。</p> <p>○××君は××君からいやなことを頼まれているようです。しかし、××君はとても強引なので、断れないようです。これから××君はどうしたらよいか手紙を書いてあげてください。</p> <p>☆自分の体験などをもとに手紙を書く。</p> <p>○書けましたか。××君はとても強引な人のようです。自分のアドバイスで本当に大丈夫かたしかめてください。あとで発表してもらいます。</p>	<p>○どうしたら強引な相手に断ることができるのかと問題を持たせる。</p>
モデリング	<p>○では、××君に書いた手紙を発表してください。</p> <p>☆「ちゃんと断る。」</p> <p>「いやなことは、いやという。」</p> <p>「大きな声で言う。」</p> <p>○みなさんのアドバイスのように、よくないことを押しつけられた時は、はっきりと断ることが大切です。しっかりと相手の目を見て、はっきりと「私はそんなことはできない」と言うのです。</p> <p>○実際にやってみます。</p> <p>○〇〇君手伝ってください。先生が××君になります。しっかりとことわってください。</p>	<p>○何人かに読ませ、要点をまとめさせる。</p> <p>○はっきりと断れる子を指名する。</p> <p>○××君役の教師は</p>

	<p>☆「いやだよ、こんなことしたくないよ。」 「自分は、こんなことはやりたくない。」</p> <p>○ありがとうございます。強引な先生にも負けずになかなか迫力がありましたね。はい、〇〇君にもどれ（役割解除）。</p> <p>○さて、みんな〇〇君の断るのを見て、どうでしたか。しっかりと断ることができましたか。</p> <p>☆ちゃんと言うことができた。頭の中でまとめることがむずかしかった。</p> <p>○実際に断るのは、むずかしいですね。断るときには勇気がいられます。自分の中に勇気をためる方法を教えます。それは自己会話と言います。</p> <p>○まず、落ち着くための自己会話をします。「落ち着いて」「リラックスして」と自分に言い聞かせます。これを心の中で3回繰り返します。ここで断るのか引き受けるのかをしっかりと考えます。心が決まりました。</p> <p>○続けて勇気をためる自己会話です。「しっかりと断れる」「ゆっくり言おう」「相手の目を見て」「大きな声で言おう」などがあります。自分にはどれが必要かを決めます。それでは言い聞かせてください。先生が強引に言ってみます。</p> <p>「ぼくの代わりに、健康観察簿を持っていけ」 「明日、ゲームソフトを持ってこい」</p> <p>○どうだったかな。どの自己会話を使ったか発表してもらいます。</p> <p>☆「落ち着いて」「だいじょうぶ」「しっかりと断ろう」</p>	<p>拒否を受け入れる 結末にする。</p> <p>○子どもの断りがいま一步の時は、××役の教師が食い下がり、おし問答をしてから最後にあきらめる。</p> <p>○この自己会話が一人ひとりのスキルトレーニングとなる。</p> <p>○特に力を付けさせたい子がいるグループを指名する。</p>
リハーサル	<p>○まとめてやってみます。先生が〇〇君の役をします。だれか〇〇君役をやってください。</p> <p>○見ている人も、自己会話をしながら見ていてください。</p>	<p>○グループ内だけではやらせない。現実と重なると事態が悪くなる。</p>
フィードバック	<p>○練習を見てどんな感想を持ちましたか。発表してください。</p> <p>☆きちんと自分の気持ちを相手に伝えることが大切。</p> <p>○断るべき時にしっかりと断ることが自分を大切にするのです。勇気をだせるように今日の学習を思い出してください。</p>	<p>○自己会話を確認する。</p>
<p><考 察></p> <p>読み物の人物に、自分を置き換えてその人の気持ちに近づくことができた。もし自分ならその場でどのような対応ができるのか。ポイントを確かめながら、練習することができた。自分の気持ちをはっきりと主張することが危機管理の第一歩である。</p> <p><授業の感想></p> <p>☆自分にできないことは、人におしつけない。むりなことを言われたら、落ち着いて、はっきりと相手に「できない。自分でやって」ということをまなんだ。</p> <p>☆いやなときは、はっきりと勇気をためて「いやだ」とか「やめて」と言うのがわかりました。私</p>		

も勇気をためて言います。
 ☆自分も人にむりなことをさせないようにしたいです。これからも気をつけてむりなことをさせたりさせられたりしないようにします。

6 公開検証授業の展開

- (1) 第6時 題材名 「あたたかい言葉」
- (2) 題材設定の理由

1学期の半ばを過ぎると、学級の雰囲気も落ち着き、子どもたちの持ち味もそれぞれ理解されている。その中から仲のよい友達をみつけグループを作り遊ぶようになる。しかし、思うように仲間づくりができなかったり、共通の話題に入ることができない子どもでてくるのがこの時期である。

言葉をかけたり、かけられたりすることは社会生活においては大切なコミュニケーションの一つである。あたたかい言葉とはなにかを知り、あたたかい言葉をかけられる体験をとおしてその良さを認め、学級集団の中で人間関係づくりに生かすことができる要素を含んだ内容とし

て、本題材を取り上げた。

(3) 本時の目標

- ① 自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気づき、「ほめる」「励ます」「心配する」「感謝する」等のやさしい言葉かけを状況に応じて使えるようにする。
- ② あたたかい言葉かけを行い、相手の気持ちをよくして、よりよい関係を深めることができる。

(4) 授業の仮説

- ① 言葉かけには、あたたかい言葉かけとつめたい言葉かけがあることを理解することにより、相手の心や状況に応じた言葉かけができるであろう。
- ② あたたかい言葉かけをする・される体験により、そのよさを味わい、他者との関係を深めることができるであろう。

(5) 展開

場面	教師の指示・発問と子どもの反応	教師の支援・留意点
インストラクション	○人から言われてうれしくなったり、いやな気持ちになったりするのはどんな言葉でしょうか。 ☆やさしい言葉・ほめる言葉・あたたかい言葉はうれしい。つめたい言葉・けなす言葉・ばかにする言葉はいやな気持ちになる。	○雰囲気作りをする。 ○問題をつかませる。 ○あたたかい言葉とつめたい言葉に分ける。
モデリング	○あたたかい言葉は、相手をほめたり相手に感謝したりする言葉です。その人の様子+感情語で言います。 ○感情語には どのような言葉がありますか。 ☆よくできたね・すごいね・ありがとう・うれしい。 ○例をみんなで読んでみましょう。 ☆「25メートルをクロールで泳げるんだね。すごいね。」 「昨日は、荷物を持ってくれたね。ありがとう。」 ○「いいとこさがしカード」を使ってあたたかい言葉を作ってください。 ○代表して発表してもらいましょう。	○問題の明確化 ○ほめる・励ます・心配する・感謝す等がある。 ○大きな声でゆっくりと読ませる。 ○交代して両方の役

	<p>☆「〇〇ができるんだね。すごいね。」</p> <p>○言われてどんな気持ちがありましたか。</p> <p>☆照れくさかった。いい気分。</p> <p>○言葉をかけるとき気をつけることはありますか。</p> <p>☆①相手に近づく。②相手をきちんと見る。③聞こえるように言う。④笑顔で言う。</p>	<p>をやってもらう。</p>
<p>リハーサル</p>	<p>○「いいとこさがしカード」を順番に回してあたたかい言葉にして言ってあげましょう。</p> <p>☆「〇〇さんは、上手ですね。すごいね。」「〇〇君は、本を読むのが上手ですね。私も〇〇君のようになりたいな。」「〇〇さんは、いつもていねいに掃除をしています。だから教室がきれいです。ありがとう。」「〇〇君は、下級生のめんどうをみているね。やさしいね。」</p>	<p>○むずかしい場合は、感情語は「すごいね」でよい。</p> <p>○グループをまわり個別指導を行う。</p> <p>○気をつけることを確かめる。</p>
<p>フィードバック</p>	<p>○あたたかい言葉をかけてもらって、今どんな気持ちがしていますか。</p> <p>☆うれしい・はずかしい・てれくさい・気分がはればれとする。</p> <p>○あたたかい言葉かけには、これ以外にも心配したり、励ましたりする言葉があります。</p> <p>○これからも今日の学習を生かして、あたたかい言葉かけのできる人になりましょう。</p>	<p>○できるだけ時間を取り、共感する。</p> <p>○家族や大人にも実践できるよう促す。</p>

<考察>

導入部分では、前回のソーシャルスキルの感想を使い、教師の自己開示を行った。発表や声を出して読むところが活発に行われた。グループ活動に入る前の説明とモデリングの工夫が必要であった。共感の部分をもっと時間をかけた。

<授業の感想>

☆みんなからほめられることばをいってもらってとってもうれしかったです。ありがとうということばは、とてもいいことばです。

☆グループでいいことを発表しあって、いいことをいわれた時は、とてもうれしかったです。友達のいいところをもっと見つけたいです。

☆みんなあたたかい言葉をいつくれた。あたたかい言葉を言われたとき、とてもうれしかった。

VI 実践の検証

1 学級全体の変容

<2回目アンケートQ-U(教研式 図書文化)
集計表診断コメント>

非承認群に属する児童が多い。非承認群に属する児童の多い集団では、児童間のトラブルは少ないものの、子どもたちが自分の気持ちを表現できなかつたり、学級全体で協力して一つのことをやり遂げようとする意欲が弱かつたりする傾向がみられることがある。「エンカウンター」を実施する場合には、楽しい雰囲気の中で自分の個性や自己を表現でき、友達関係を深められるようなエクササイズを採り上げていくとよいだろう。また、個別の児童に着目してみると、要支援群に属し学級内で孤立し友人からのサポートも得られていないと感じている児童や、侵害得点が高いいじめや悪ふざけを受けていると強く感じている児童がいる。これらの児童に対する積極的な働きかけが望まれる。

また、学校生活意欲尺度の結果を見ると、「できなかったことができるとうれしい」「もっと勉強ができるように努力している。」など学習意欲で望ましい感情をもっている児童が多いようである。(2回目7月13日実施)

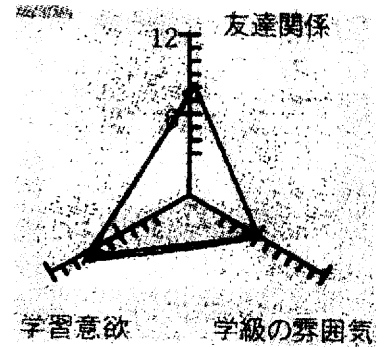
1回目のアンケートQ-U集計表と比べてみると、非承認群は26%と半分に減っている。学級生活満足群は44%とわずかに増えている。侵害行為認知群11%と学級生活不満足群19%は、増えている。全体としてみると、分布にばらつきがみられる。また、前回と同様、学級のまとまりや自分の気持ちを素直に表現する意欲が弱い傾向がみられる。さらに、個人をみてみると友達のサポートが得られない孤立感やいじめや悪ふざけを受けていると感じている子がいる。

これらのことを合わせて考察すると、これからも引き続き学級の雰囲気づくり・よい人間関係づくりに 構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルを楽しい雰囲気をつくりながら実施したいと考える。

2 抽出児の変容

P児について

意見のすれ違いや、衝突があると泣き出してしまう。不安傾向が強く、孤立気味である。アンケートQ-Uの個別の学校意欲プロフィール

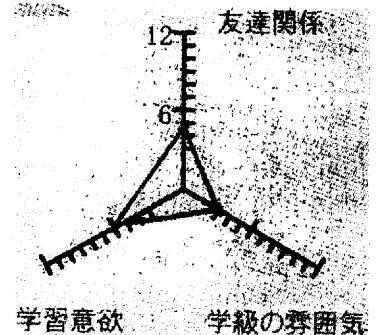


をみると、学習意欲はあるが、友達関係と学級の雰囲気に不安を感じていることがわかる。構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルを実施したときは人との関わりに、不安を持っているようだった。だんだん慣れてくると楽しく授業に参加していた。

7回の授業後のQ-Uの結果をみると、「友達関係」と「学級の雰囲気」が1ポイントずつ上がっている。

Q児について

いつも一人で過ごすことが多く、休み時間も読書などをして過ごしている。個人の学校意欲プロフィールでは、友達関係・学習意欲・学級



の雰囲気いずれもポイントが低い。7回の授業後には、まとめの感想として構成的グループエンカウンターもソーシャルスキルも「とても楽しかった」と書いていた。人との関わり方を身につけることにより、生活意欲を高められるようにしたい。

2回目のQ-Uの結果をみると、友達関係・学級の雰囲気が2ポイント下がっており、学習意欲が1ポイント上がっている。一対一の面談も含めながら、観察を続けたい。

VII 研究の成果と課題

1 研究の成果

7回の検証授業に取り組んだ。授業の中で、あるいは授業後の子どもの感想を読むと、あらためて

日常生活の中でなにげなく交わす、あいさつや言葉・ふれあいなどの大切さがわかる。よりよい人間関係を育てていくには、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルを学級活動の中で実践することが有効であることがわかった。

○ 仮説1について

アンケートQ-Uを実施し、教師の客観的な観察と合わせて活用することにより、学級の全体的な雰囲気や、個別の心の状態を把握することができた。この資料を、学級経営の中に生かすことができた。

○ 仮説2について

ソーシャルスキルや構成的グループエンカウンターを学級活動の中で展開することにより、子どもたちは自分の生活を見直し、他の人とよりよく関わっていこうとする意欲がでてきた。

2 今後の課題

- (1) 学級活動年間計画へのソーシャルスキル・構成的グループエンカウンター的位置づけ。
- (2) 個に応じた対応のあり方。
- (3) よりよい人間関係づくりを学級の中で定着させ、学校生活や家庭生活の中で実践させたい。

<おわりに>

本研究を終わるにあたり、研修の機会を与えていただいた浦添市教育委員会、浦添市立教育研究所・新城英将所長に深く感謝の意を表します。また、研究の進め方・発表の仕方などをご指導いただいた新川純子研究係長・与古田忠信指導主事に対して深謝の意を表します。さらに、授業の指導助言・講評をいただいた沖縄キリスト教短期大学渡久地政順教授・那覇工業高等学校仲村将義教諭に深く感謝の意を表します。

最後に、あたたかく見守ってくださった神森小学校・比嘉信勝校長を始め先生方に厚くお礼を申し上げます。

<主な引用文献・参考文献>

- ・ 「小学校における教育相談の進め方」
文部省 平成3年
- ・ 「登校拒否問題への取り組みについて」
文部省 平成9年
- ・ 「エンカウンターで学級が変わるII」
國分康孝 平成7年
- ・ 「ソーシャルスキル教育で子どもが変わる」
國分康孝 平成11年
- ・ 「教師の育てるカウンセリング」
國分康孝・中野良顯 平成12年